

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要】(事業所記入)			
事業所番号	3577600244		
法人名	社会福祉法人 正清会		
事業所名	グループホーム白松苑		
所在地	山口県山口市阿知須4900番地4		
自己評価作成日	平成22年9月30日	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成22年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・調理や盛りつけ、配膳等できることを分担しながら、三食とも皆で作っています。四季の果物狩りや「たまには外で食べたいね」の、入居者の一言ででかけるといった、小回りの効くアクティブな運営を行っています。協力病院や併設の特別養護老人ホームからの応援体制により、健康管理にも気を配っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の文化祭に利用者の作品を出品され見学に行かれたり、中学校の運動会の見学や小学生と一緒に論語を読まれたり、婦人会や老人クラブの人々が訪問されるなど、地域の一員として日常的に利用者が地域の人たちと交流できる様に取り組まれています。三食とも事業所で食事作りをされ、買い物、食事の準備、後片付けなど、利用者一人ひとりが出来ることをとにしながら、同じ食事を食べて食事が楽しめるように支援されています。利用者に張り合いや喜びのある日々を過ごしてもらうために、食事づくりへの参加や地域の文化祭に出品する作品づくりなど活躍できる場面づくりをされたり、日常的な外出が楽しめるようにいろいろと取り組まれています。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に「地域の方とふれあいをもつ」方針 「地域活動に参加する」を加えている	「家族のように共に生活する。」「地域の方とふれあいをもつ」という独自の理念を作成して、全職員で共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人で自治会に加入し、ふれあい祭り、文化祭等の地域行事や中学校の運動会などに参加している	地域の文化祭に利用者の作品を出品して見学に出かけている。事業所や法人の祭りで交流したり、中学校の運動会の見学や小学生と一緒に論語を読んだり、婦人会や老人クラブのボランティアの訪問があるなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症出張講座を、地域で年3回くらい行っている		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	浄化槽の臭気の改善、下水道につなぎ、浄化槽の廃止。緊急時対応方法や薬の副作用等勉強会を行っている	全職員に評価の意義を説明し、ユニット会議で項目ごとに意見交換をしながら検討し管理者がまとめている。評価を活かして改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告を行い、意見をいただき、サービスの向上に活かしている	2か月毎に開催している。活動状況報告、外部評価の報告、避難訓練の参加等について意見交換をし、サービスの向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括担当者や司法書士と連携をとり、後見人について相談している	地域包括支援センターと情報交換をしたり、介護保険課等関係機関とも協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを職員で話し合い、日中は開放している。身体拘束についても、研修会に出席し、正しく理解し、取り組んでいる	身体拘束をしない方針、マニュアルを作成し、勉強会を通して職員は正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠はしていない。職員と話し合い、見守りに努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会(法人内)があり、参加している。内容を報告し、職員の意識・統一を図っている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者と共に成年後見制度の利用について、司法書士や裁判所関係者と話し合いを持っている		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時・退去時に説明し納得をいただいている。料金改定についても個人個人に説明し、理解・納得を得ている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、記入の呼びかけをしている。家族会で意見をもらっている	家族の来訪時や電話でも意見を聞くようにし、運営推進会議に家族も参加して意見交換しやすい雰囲気作りに努めている。苦情の受付体制や処理手順を定め、外部機関等も周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	適宜、職員との意見聴取など、運営に関する調整を行っている	月1回の全体会議やユニット会議で職員からの提案や意見を聞き、話し合い、代表者は意見や提案を反映させるよう努めている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事制度があり、職員が向上心を持って働けるよう、職能評価を行っている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加している。法人内の研修があり、年間計画で開催され参加できている	研修情報を提供し、職員は勤務の一環として参加し、復命している。月一回の法人内研修(委員会研修)への参加の機会や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、研修会に参加したり、勉強会や交流会があり、交流できている。他施設の見学に行き、サービスの質の向上の取り組みを行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前施設や家族から、情報をいただき、本人が早く安心して生活できるよう、対話に努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人・家族と連携を密にし、要望等お聞きしながら、信頼関係に努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、本人・家族のその時必要なサービスの対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人から昔のことなど、教えていただく事も多く、共に生活する立場を築く様、努めている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と日頃からコミュニケーションをとり、共に本人を支えていく関係を築くよう務めている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員付き添いの元、自宅へ帰られ、仏前参りや、畑の草取り、さつま芋や玉葱と一緒に世話をされている	馴染みの美容院に出かけたり、自宅に仏前参りをしたり、畑の草を取ったり、これまで大切にしてきた事が出来るよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の助け合いが見られている。歩行時のきずかいや、手を引いてあげる場面が見られる		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時にはお見舞いに行っている。併設の特養に行かれた時は、声掛けを行い、本人・家族との関係が保たれて、会話などできている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人を尊重し、その方のニーズを把握し、その人らしい暮らしが出来るよう検討し、支援している	食事やお茶の時間、入浴時等日々の関わりの中で思いや意向の把握に努め、家族等からも情報提供を受けて、個人記録や連絡ノート等に記載し共有している。	
25		○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、前サービス提供者からの情報・生活などで、これからの暮らしの把握に努めている		
26		○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい暮らしが続けられる様、現状を総合的に把握するよう努めている		
27	(12)	○ チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月ごとのモニタリングで見直しを行っている。他、必要時の見直しも行っている	本人、家族の要望を聞き、関係者と話し合い、計画を作成している。実施状況を基にモニタリングをして、評価後に見直しをしている。	
28		○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別の記録を記入し、ケアプランの実施などの実践や計画の見直しに活かしている		
29		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、ショートステイの利用を受けている		
30		○ 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあいまつりに、中学生ボランティアがあり、地域の文化祭への作品展示の見学を行っている。しめ縄作りも、ボランティアの方と行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に応じている。家族と連携を密にし、かかりつけ医と連携を行い、健康管理に努めている	利用者、家族の希望するかかりつけ医となっている。受診支援後は家族との情報交換をしたり、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特養の看護職と連携を持ち、急な対応にも協力がとられて、日常の健康管理ができています		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にサマリーを提供して、支援方法を伝えている。退院時には、病院関係者、本人・家族と連携をとり、話し合っている		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「看取りに関する指針」を定め、本人・家族・医師と話し合い、方針を共有している	入居時に説明し、重度化した場合は段階的に話し合い、方針を共有している。医療連携、週2回の嘱託医往診等、地域の関係者と共にチームでの支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	リスクマネジメント委員があり、年2回の研修に参加、事故報告の検討をし、利用者の状況を職員で共有し、事故防止に努めている。ユニット会議で、全職員で、応急手当の勉強会に参加し、実践力を身につけている	法人のリスクマネジメント委員会が開催する年2回の研修に参加している。事故報告の検討をし、事故発生時に備えて、ユニット会議で酸素吸入と吸入器の使い方の勉強会している。定期的な訓練はしていない。	・応急手当、初期対応の定期的訓練の検討
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	警察や消防、ご近所の方にも、協力していただける様働きかけている。特養からの応援も得られている。防災委員会があり、防災訓練に参加している	法人全体での年3回の昼・夜想定避難訓練を利用者と一緒に行い、年1回実施する事業所独自の訓練時に運営推進会議の委員も参加し、利用者の見守りや消火活動等の協力がある。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の誇りやプライバシーに配慮した対応に、職員全員で取り込んでいる	マニュアルを作成し、ユニット会議で話し合い、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応に取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	解りやすい様に話しかけたり、選びやすいように声掛けを工夫し、自分で決めてもらっている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースを大切にし、希望を聴きながら、その人らしい1日を過ごしてもらえる様、支援している		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自由にその人らしいおしゃれが出来るよう、支援している		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を作り、食卓に添えることもあったり、一緒に買い物へ出掛けたり、食事作りと一緒に楽しんでいる。その方にできる事を手伝っていける様、支援している	三食とも事業所で作っており、できることを活かして買い物、食事の準備や食器洗いなどを利用者と一緒に行い、職員も一緒に食卓で同じ物を食べながら食事を楽しめるよう支援している。行事ごとの外食の回数も多く計画し、好みの食事の工夫もしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分量を記入している。定期的に医師・看護師の健康チェックも受けている。また、特養の栄養士にもアドバイスをもらっている		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい液でうがいを行っている。義歯洗浄も行い、義歯は毎日、夜間ポリデントにつけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を記入し、その方にあった排泄用品を検討し、トイレでの排泄に向け、全職員が支援している	排泄日誌に記録し、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を生かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に努めている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を記入し、便秘にならない様、バナナ酢による、食べ物の工夫を行って、便秘の予防に取り組んでいる		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	楽しんで入浴して頂けるよう、ゆっくりその人に会った、入浴の支援をしている。希望により、午前中も対応できる	入浴時間は14:30～16:30となっているが、希望や状況により、午前中対応もしている。利用者同士で一緒に入浴する人、入浴したくない人等一人ひとりに応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間寝る事で、夜眠れない方は、時間を見計らい、体調に合わせて、休息してもらっている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用の勉強会を行い、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	米とぎをしてくださる方、野菜切りをしてくださる方、味付けをしてくださる方、食器拭きをしてくださる方、色々調理作業にされている。また、カラオケにも参加されている	地域の文化祭に出品する作品作り、ぬりえ、新聞読み、洗濯物たたみ、カラオケ、おやつ作りや盛りつけ、味付け、食器洗いなど、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物への外出、ご自分の家への付き添いに出掛け、仏前参りや畑仕事もされている、お地藏様・八幡様・外食には、皆さんと出掛けている	四季の花見(芝桜、コスモス、桜等)、ブドウ狩り、地藏まつり、運動会見学、初詣、ふるさと訪問、買い物、ふれあい祭り、外食等戸外に出る機会を作り、外出が楽しめるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が持参され、理美容院代や買い物なども、ご自分で支払いされる。お預かりしている方もあり、お祭りの時には、一緒に付き添い、買い物の支援をしている		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と電話で話されている。手紙についても、家族へ出されている。絵手紙が毎日のように届く方もおられる		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の間があり、寝転んでテレビを見られたり、冬はこたつに入られ、団樂の雰囲気がある。利用者が生け花をされている。夏祭りの金魚を飼って楽しまれている	天井が高く、明るく温度調整もでき、広い廊下には手すりがあり、移動しやすく、畳の間、食卓の椅子、ソファがあり利用者の居場所となっている。仕切りのない空間で調理の音や匂いなど生活感もあり、居心地よく暮らせる工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの窓際にソファを置き、外の景色が見えるようにし、四季を感じてもらっている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前や入居時に説明を行い、本人が使用されていた、なじみのタンスや使い慣れた寝具類を使用され、安心されている	利用者や家族と相談しながら、タンス、椅子、仏壇、テレビ、人形、写真等使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器やシルバーカーが移動されやすい様、空間を保持し、生活環境を整えている		